

マルチメディア通信の共同利用実験

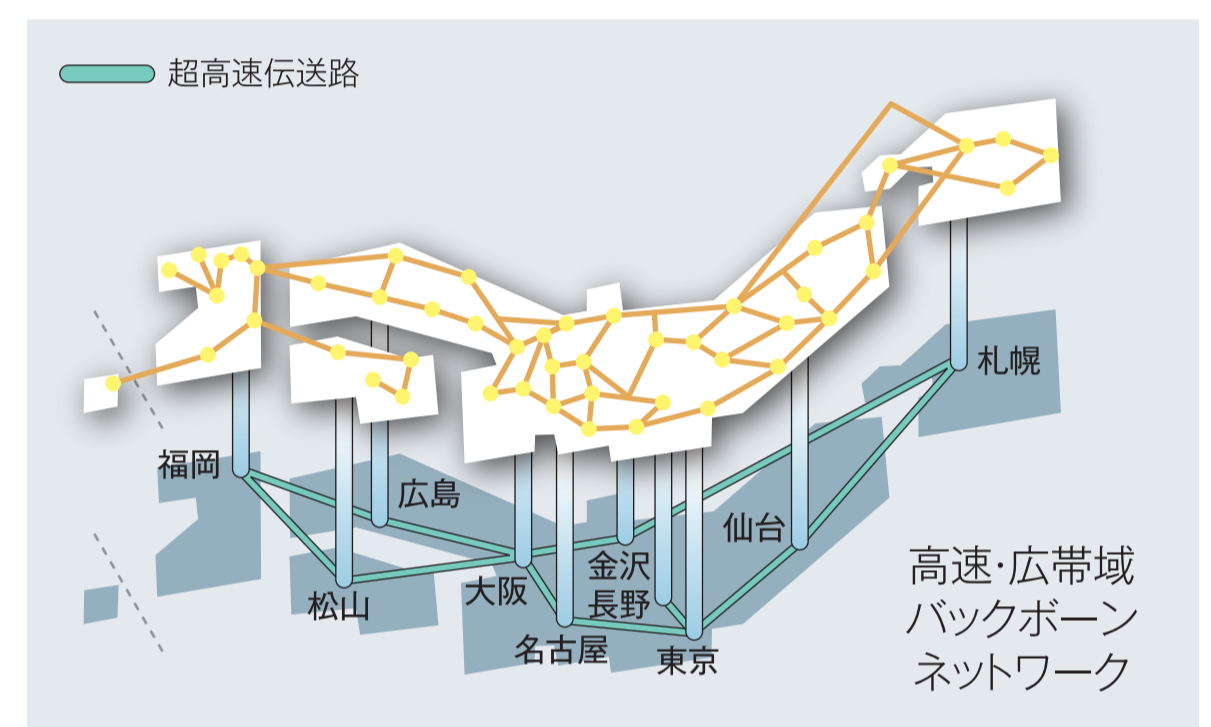
Joint utilization test Projects of “Multimedia Communications”

マルチメディア社会に向けたネットワークの利用法やアプリケーションの開発に関する産学官共同の全国広域利用実験

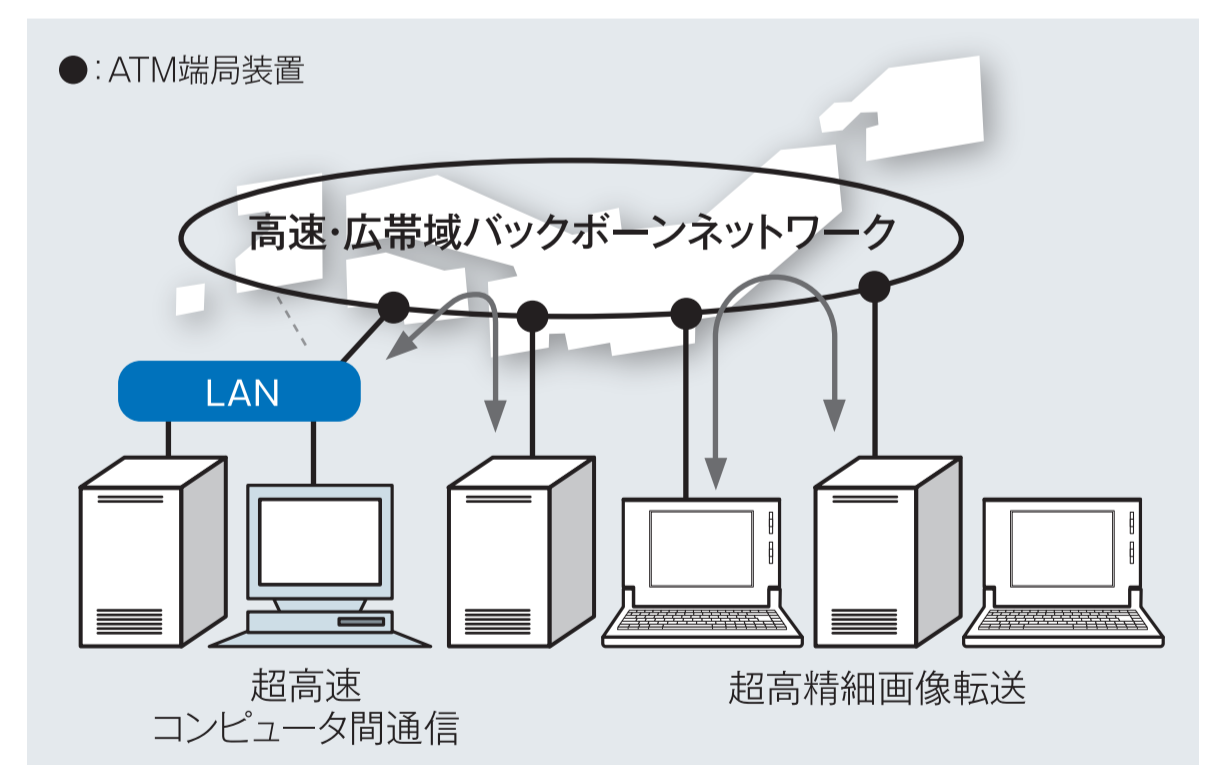
1993年、米国の情報スーパーハイウェイ構想を機運として、映像、音声、文字など複数のメディアを組み合わせたマルチメディアが各方面で取り上げられ始めました。NTTは1994年1月「マルチメディア時代に向けてのNTTの基本構想」を発表し、1994年9月から2年半にわたり「マルチメディア通信の共同利用実験」を企業、大学、公的研究機関等と共同で実施しました。ATM技術と光ファイバ技術を活用して、ギガビットクラスの超高速通信の全国広域利用実験を行ったほか、利用者宅まで光ファイバを引き、CATV映像伝送、ビデオ・オン・デマンド(VOD)サービスなどを行いました。

本実験の成果から、NTTコミュニケーションズのインターネット接続サービス「OCN」や、NTT東西地域会社とNTTコミュニケーションズのATM専用線「ATMメガリンクサービス」、「CATV映像伝送サービス」や「新光アクセスシステム」などの新技術・新サービスが生まれました。

ATM : Asynchronous Transfer Mode
CATV : CAble TeleVison
LAN : Local Area Network



当時の基幹光ファイバネットワーク(イメージ図)



実験ネットワーク(イメージ図)

提供回線規格	156Mbit/s
共同実験参加者	企業および公共の研究機関(13グループ)
実験地域	札幌、仙台、東京、長野、金沢、名古屋、大阪、広島、松山、福岡(端局装置所在地10ヶ所)の周辺
実施期間	1994年9月~1997年3月まで

実験内容